

ガ（蛾）とチョウ（蝶）には、厳密な区別はありません。ただ、日本にいるガ・チョウ類では、圧倒的にガのほうが種類も個体数も多く、実はチョウは少数派です。「ガ」と「チョウ」の見かけ上の区別は厳密には存在しません。しかし、元九州大学教授の白水 隆博士は以下のように述べています。

「・・・蝶と蛾をどういう点で区別したらいいかと言うと、我が国における限りでは、両者の区別は触角の形によるのが無難である。すなわち、チョウは先のふくれた「こん棒状」の触角を持っているが、ガのほうは「糸状・くし状・羽毛状」をしたものが多く、中にはスズメガやスカシバ類のように太いものもあるが、こん棒状ではない。しかし、世界のチョウ・ガに眼を向けると、ガのなかまにもこん棒状の触角を持ったものもいるし、ちょっと見ただけではチョウかガか区別しにくいようなチョウもいる。・・・」

確かに数あるガの中には、チョウと見間違えるような美しい種類もあります。特にシャクガの仲間が多いように思います。たとえばシシウドの花を好む「ヒョウモンエダシャク」というガは、かなり近づいて観察しても、チョウにしか見えません。しかし触覚をよく観察すると「櫛状」になっていて、ガの仲間とわかります。

逆に、チョウの仲間にもよくガと見まちがえられる種類もいます。特に「セセリチョウ」の仲間がそうだと思います。先日、長野県の八島湿原に行った時も、このセセリチョウの仲間に出会いました。特に翅の裏側を見せて休んでいる姿は、素人目にはガに見えます。しかし触覚をよく観察すると、先端がこん棒状になっていて、明らかにチョウとわかります。その場では種の同定までできなかったのですが、チョウに詳しい露木和男先生に同定を依頼したところ、「コキマダラセセリ（小黄斑せせり／*Ochlodes venatus*）」とわかりました。

（2024年8月上旬／長野県八島湿原）

